

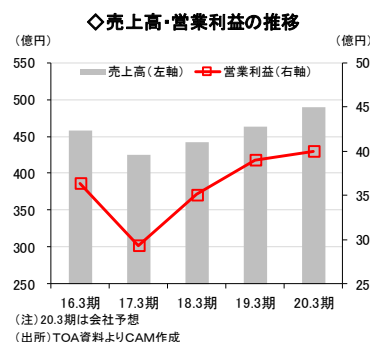
企業ニュース TOA

(東証1部：6809) <https://www.toa.co.jp/>

作成者：村上大志

音響・映像機器の専門メーカー

1934年、東亜特殊電機製作所として創業し、トランペットスピーカーやマイクロホンなどの製造販売を開始。1949年、法人組織に改組し、東亜特殊電機を設立。1989年、現社名に商号変更。避難誘導や案内放送を行う非常用及び業務用放送設備や音響システム、監視カメラを含めた防犯システムなどを扱う音響・映像機器の専門メーカー。アジア・パシフィック、欧州などを中心に世界各エリアで最適な生産・販売体制を構築し、世界120カ国以上で営業を展開する。19.3期のセグメント別売上高構成比は日本61%、アジア・パシフィック16%、欧州・中東・アフリカ11%、アメリカ8%、中国・東アジア4%。中期経営計画では21.3期の売上高530億円、営業利益43億円を目標として掲げている。



防災意識の高まりで需要が増加

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が90億8,000万円、前年同期比3%増、営業利益が2億300万円、同407%増。日本の売上高は52億円5,900万円、同2%増。営業利益は7億9,500万円、同34%増。音響機器は鉄道車両向けが減少したが減災・防災向けが伸長、映像機器はセキュリティカメラの販売が堅調だった。アジア・パシフィックの売上高は16億8,100万円、同9%増、営業利益は3億900万円、同4%増。タイやインドネシアでの販売が堅調だった。特にタイでは交通インフラ向けが伸長した。

20.3期の通期会社計画は売上高が490億円、前期比6%増、営業利益が40億円、同2%増。東京オリンピック・パラリンピックやインバウンド対応などの設備増設や近年多発している自然災害への対策として、当社の音響・映像機器への需要は増加している。特に、防災意識の高まりにより地方自治体向けに防災スピーカーの需要が拡大しており、業績への貢献が見込めよう。アジア・パシフィックでは、開発・生産・販売の機能を域内に持つことで、地産地消ビジネスが加速している。強みの開発力を生かした高品質な音響システムの拡販にも期待できよう。

[株価動向・投資判断]

各種イベントの開催や防災意識の高まりで当社への需要は増加している。持続的な成長が期待できよう。

<6809 TOA 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	44,180 (4)	3,510 (20)	3,561 (17)	2,138 (22)	63.2	23.00
19.3	46,338 (5)	3,903 (11)	4,099 (15)	2,504 (17)	74.0	26.00
20.3 予	49,000 (6)	4,000 (2)	4,100 (0)	2,450 (▲ 2)	72.3	20.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価(2019/9/20)	1,302 円
年初来高値(高値日)	1,358 円(19/7/2)
同 安値(安値日)	937 円(19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	18.0 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,264.2 円
P B R	1.03 倍
予想配当利回り	1.54 %
(1株当たり配当金年20.00円)	
R O E (19.3)	5.8 %
発行済み株式数	3,454 万株